



KUSHIRO WEST ROTARY CLUB 2015~2016 (平成27年~28年)

釧路西ロータリークラブ会報

創立 昭和45(1970)年6月8日 承認 昭和45(1970)年6月10日

2015~2016 RI テーマ 「世界のプレゼントになろう」



《例会日：毎週月曜日 12:30~13:30》

《例会場：ANAクラウンプラザホテル 釧路市錦町3-7》

会長 三木 克敏 幹事 佐藤 雅之

■クラブ事務所■

釧路市幸町14丁目1-1 ノースコートサンスイ2F

TEL(0154)23-6175 FAX(0154)23-6123

《本日のプログラム》 9月7日 12:30

普通例会

基本的教育と識字率向上月間プログラム

《次回のプログラム》 9月14日 12:30

普通例会

ライラセミナーとは

2015年 9月7日(月) 第9回 通算2109回

【点 鐘】 三木会長

【ロータリーソング斉唱】 「国歌」「我等の生業」 ソングリーダー：佐藤和彦会員



【会長挨拶】 三木会長

みなさまのお手紙にございます、ガバナー月信vol.3、その5ページにガバナー公式訪問として、当釧路西ロータリークラブが紹介されております。「～総勢27名、バランスの取れた質の高いクラブと感じました」。自他ともに、まじめなクラブとされる釧路西ロータリークラブ会長として、とても嬉しく最高の褒め言葉だと思いました。

さて、先週8月31日は夜間例会として「体験例会」が開催されました。山岸さん、高畑さんをゲストにお迎えし、楽しい交流ができましたが、早いうちに入会につながられればと思います。引き続きご協力をお願い致します。会長・幹事会に出席して他クラブと情報交換をしますと、そうした「体験例会」を年間プログラムに組み入れているクラブが多いように思います。当、釧路西ロータリークラブにおきましても、次年度以降、年間プログラムに組み入れることが必要かと思った次第です。会員純増2名以上を目標に、今年度は下期におきましても、「体験例会」を開催できればと考えています。以上で会長挨拶を

終わります。

【幹事報告】 代行 三木会長

- ・ 近隣クラブより会報・プログラム例会案内
- ・ 釧路市民活動センター「わっと」より会報
- ・ メサイア合唱団 団員募集のおしらせ
- ・ 釧路川・リバーサイドフェスタ 2015 のご案内

以上を拝受報告



【にこにこ献金】

- ・ 結婚記念 張江会員

【本日のプログラム】 「基本的教育と識字率向上月間プログラム」



国際奉仕委員会 加藤委員長

本日は、DVDの鑑賞を含め、識字率につきまして、みなさまにお話をさせていただきます。個人的に調べさせていただいたところ、'識字率とは' 文字の読み書きができ、理解できる能力を持った人数の割合を指しています。日本人の識字率の高さは有名で、江戸末期の武士でほぼ100%の人が読み書きできたといわれております。日本では主に 'ひらがな' 'カタカナ' '漢字' の3つを学び、普段から使用します。たった26文字のアルファベットしか使用しない欧米に比べて、かなり難しい言語を幼児期から操っていることから、世界最高水準の識字率といわれております。

では、'日本の識字率は本当に100%なのか' ということでは、ある学校の先生のお言葉を借用

させていただきますと、授業で生徒に教科書を音読させると、漢字をほとんど読み飛ばす、あるいは自分の住所も書くことができない、そんな生徒がクラスに一人、二人ではないということです。そこには、家庭環境(シングルマザー・貧困等)も一因とされていますが、正しい言語感覚や能力を育てるためには、日常的に言語に触れていなければならないとおっしゃっております。この問題は、子どもばかりではなく、実は読み書きできない大人も多いとのこと。社会人になってからも簡単な文章において、主語・述語関係がめちゃくちゃで、文脈が意味不明であったり、ことばを自分の思った順に並べていくことしかできない若者が実に多いことに驚いたそうです。これは先に述べた通り、子ども時代の頃から読み書きがしっかりできていなかったことに起因するものであり、この現実において、実は日本の識字率は100%ではないことを認めなければならないとのことでした。

このたびのDVDの中で、ロータリー財団では、みなさまからのご寄付を、世界的ネットワークを通じてポリオ撲滅や、様々な平和の推進活動に有効活用されている中、特に基本的教育と識字率向上についてみなさまにご覧いただきます。本日はその中で、ブラジル子ども達が、集中言語能力助長プログラム(CLE)で読み書きを覚える活動について説明されております。どうぞご覧ください。



この機会ですので、教育の実情について、三木会長より現況のお話を伺いたいと思います。

【三木会長】

私も、子ども達に学習指導をしておりまして、仲間内でも議論をするのですが、実は、学校教育において日本語の文法の指導というものがほとんどありません。小学校での国語のカリキュラムの中で、‘主語・述語・修飾語’という言葉が出てきません。小学校の入学時点で、ほぼ日本語が理解できているという前提の中で、カリキュラムが組まれています。例えば、‘段落’については1・2年生では習わず、3年生でやっと出てきます。中学生などで数学の文章問題が出てきた場合、何が分からないかという、実は文章の意味が理解できないのです。通常の話し言葉は理解できても、いざ読ませてみるとまったく読めない、書かせてみると書けない、という現状があります。教育現場では、読書活動の中でとりわけ軽視されているのが‘音読’です。声に出して文章を読ませてみると、国語力に劣る子どもはそれができないのです。読めないところが来ると1行2行を飛ばしたりたし逆に戻ったりしてしまう。おそらく文脈を短期記憶する能力が損なわれているのではと思われます。

今年度の会長としての事業として、こだわりをもって20数年ぶりに作文コンクールを復活させようとしているところにも、実はこのような部分に直結しております。現在、書く練習が絶対的に足りない。作文指導が不足しております。「~についてどう思うか」とか「~についての感想は」という部分について、年々軽視されているかの感があるかと思われます。実際、夏休みや

冬休みでは、作文の宿題がないのです。その日あったことを1行だけ書くという形、1行日記というらしいですが、そうしたものが主流になっています。

識字率についてですが、‘識字率調査’というものは実はないのです。義務教育があり、そこで全員が修了しているとの前提で100%としているのです。中には、何らかの理由により不登校になって学校から遠ざかり、文盲に近い子どもは、おそらく一定数は存在するのではと言われております。社会に出て行くための基本は、昔から‘読み’‘書き’‘計算’とよく言われておりましたが、重要性ではまさにその順番になっていると思います。読むことができ、書くことができ、そして最低限の計算ができること、それが重要ではないかと思えます。以上、ちょうどお時間となりました。ありがとうございました。



- ・ 【次回例会のご案内】
- ・ 9月14日（月曜日）12:30～ 普通例会「ライラセミナーとは」
担当：社会奉仕委員会

《例会運営委員会 金田委員長》

9月7日	在籍数	27名		「編集：松田委員」
	出席者	15名	欠席者 13名	出席率 56%

会報委員長： 金田 剛	副委員長： 松田 正昭			
委員： 石川 俊二	佐久間好明	櫻田 美香	杉野史和	鶴間秀典